

共助×共創による、これからの公共サービスの実現

～一人ひとりが住みたい場所に住み続けるために～



・HAKUHODO・

富山県朝日町の紹介

◇ 朝日町の基本情報 (令和4年5月1日現在)

〈位置〉 富山県の東端、新潟県との県境の町

〈人口〉 11,173人 (高齢化率44.6%)

〈世帯数〉 4,693世帯

※平成22年に町内全域過疎地域指定を受けています。

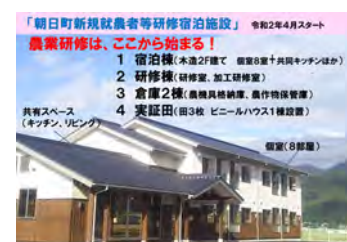


◇ 消滅可能性都市に指定

- ・2014年：消滅可能性が高い都市のひとつに選定される。
- ・「変えるんです”朝日町”」をキャッチコピーに掲げ、山積する課題解決に取り組む。

◇ 積極的な外部事業者/外部人材との共創

- ・2020年：新規就農者の研修施設を整備し人材育成
- ・地域おこし企業人/協力隊も積極的に受け入れる。



富山県朝日町の紹介 2

◇「海」「平野」「山」「川」
多くの自然要素を兼ね備えた町



◇全国に先駆けた朝日町における取り組み例
(詳細は別添参照)



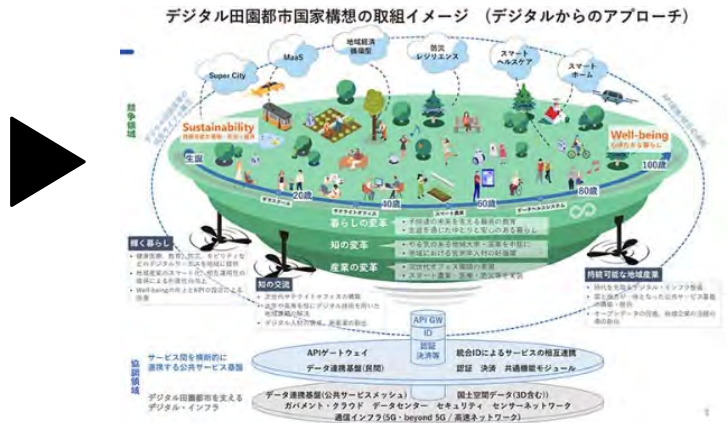
朝日町が社会課題に取り組む意義

朝日町は課題先進地域：20年後の日本の社会課題が顕在化
将来的な「日本全体の社会課題解決モデル」を朝日町から！

地方発
デジタル田園都市国家構想の
社会実装モデル＝朝日町モデル



朝日町モデル拡張
デジタル田園都市国家構想の
自治体DX実装@日本全国



「ノッカル」のポイント：サービス設計

● 法律に基づいた**安全なサービス**

「事業者協力型自家用有償旅客運送」の全国第1号として法に基づき運用
朝日町役場が運行主体として提供する安全な公共サービス、保険も付与

● 朝日町から**交通事業者**に運行管理を委託

タクシー事業、及びあさひまちバスの運行委託を受けている黒東自動車商會が
このサービスの運行管理を行う

● ドライバーは**助け合いの精神**をもとに、**ついでに送迎**

2種免許保持者または、安全講習を受けたドライバーが個人の自家用車を使って送迎
ドライバーはもともと行く予定のある場所に、近所の利用者を乗せてあげる

● 各地区と中心市街地間の利用に限定

居住地区から病院・スーパー・役場などがある中心市街地までの利用に限定
自分の車に乗せてあげる利用者は同じ地区に住む住民のみ



地域住民がドライバーとなり、近所の利用者を送迎するサービス

「ノッカル」のポイント：安全設計

● ドライバーに**安全講習**を実施

2種免許を持っていないドライバーに対しては、ドライバーになるための講習を実施
安全運転に自信がない人はドライバーにはなれない

● **安全な車両**のみを使用

運行に使用する車両を登録する際に、車両の状態車検の有効期限を確認

● 運行前に**ドライバー点呼**を実施

運行前に、ドライバーの健康状態・アルコールの有無を運行管理者が確認ガイ
ドラインに沿って、使用する車両に問題がないかを確認

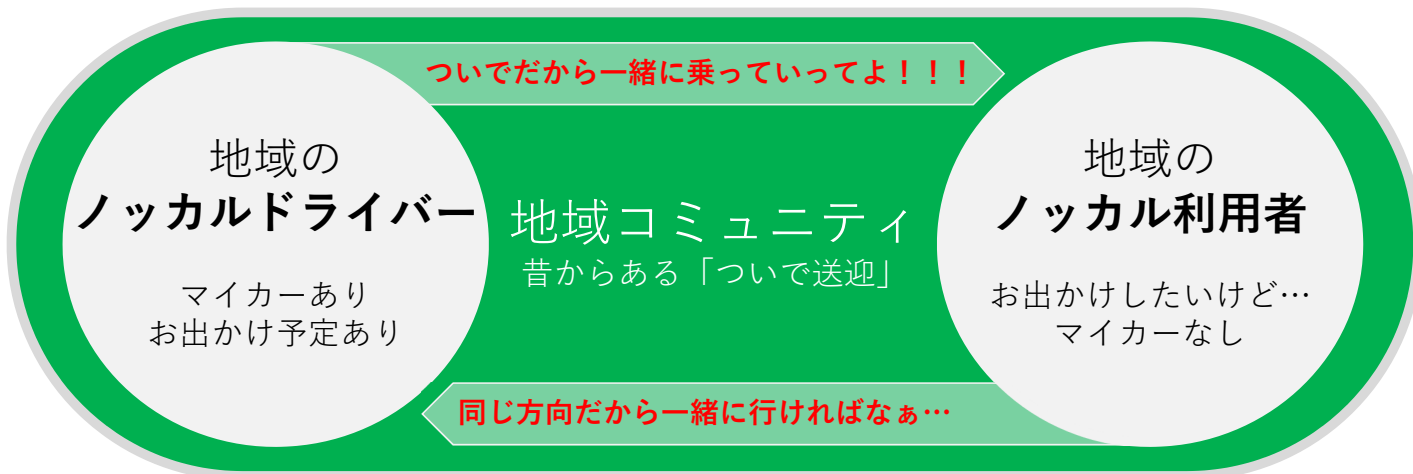
● 事故に備えた**保険を完備**

万が一運行中の事故が発生した場合に備えて、旅客運送用の保険をかける



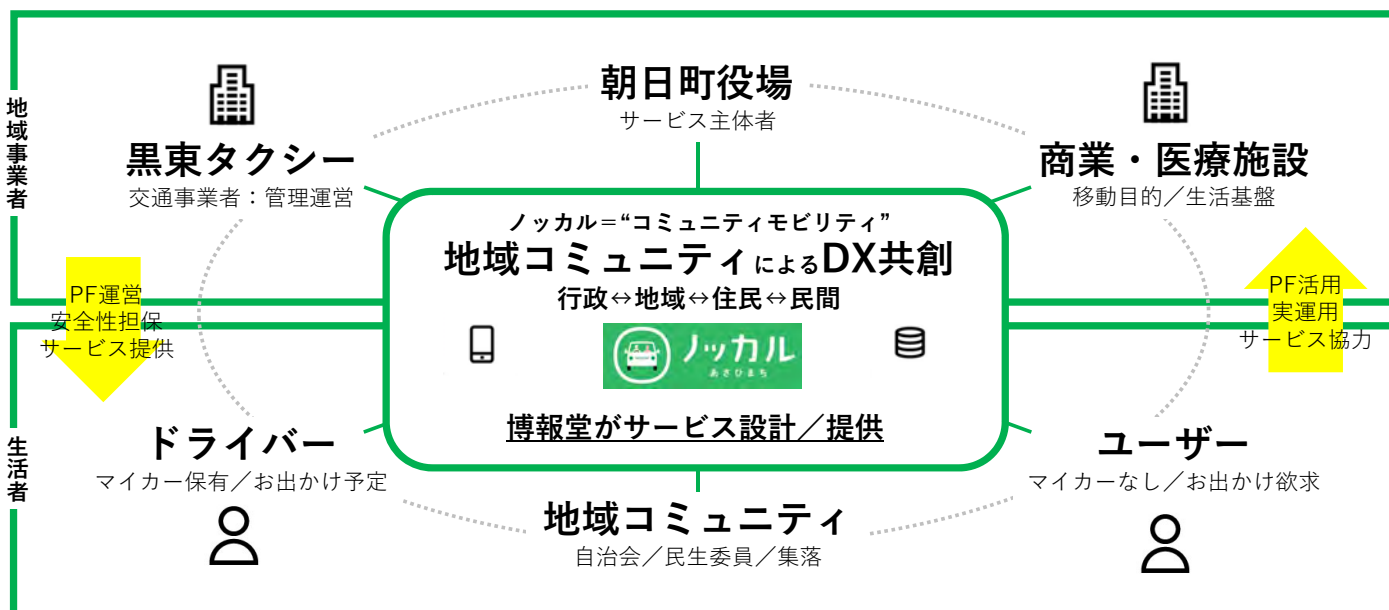
安心・安全な運行を目指す

「ノッカル」 = コミュニティモビリティ 地域交通を地域コミュニティ発想で再構築する



「地域コミュニティ内の思い」を、デジタルを活用し可視化

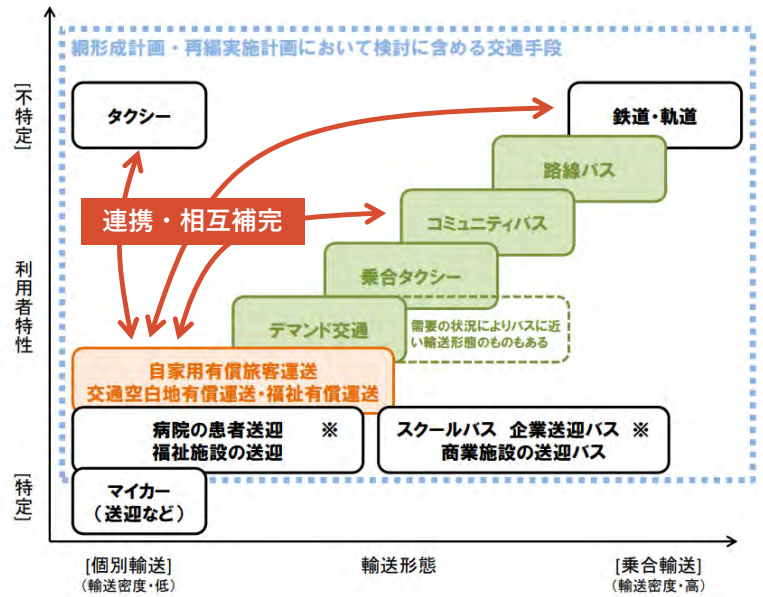
ノッカルは、地域の地域による地域のための、地域交通のあり方。
博報堂はサービス提供するが、**実運用は地域コミュニティ**によるもの。



「ノッカル」の本質

ノッカルは、バスとタクシーの中間のサービスとして開発。
 既存交通の需要を奪うのではなく、**全体としての利便性向上・移動量増加**を目指した取り組み。

- × バスからノッカルへの切り替え
- × タクシーの安価版の提供
- 既存交通の補完
- 既存交通も含めた移動総量増加
- 交通全体での最価値化



「ノッカル」の仕組み：アナログ×デジタル

フロント = **アナログ**
 高齢者でも使いやすい設計に

バック = **完全デジタル**
 素人ドライバーでも安全運行可能に

紙のバス券・時刻表・電話窓口
 (地域バスと共有で地域負担減)

管理システム/ドライバーアプリ/予約LINE
 (地元タクシー事業者が運行管理)



「ノッカル」の仕組み：アナログ×デジタル

課題先進地域である朝日町から始めたが、高岡市・浜松市・川崎市・横浜市など、規模の大きい自治体からも引き合いあり。コスト削減し**自治体財政を解決するモデル**として注目。

高岡市
路線バスの廃線・タクシー会社が撤退した交通空白地域での移動の足の補填

乗り合い交通「ノッカル」導入へ
高岡・中田地区

10月の実証運行目指す

浜松市
高齢化が進む中山間地域でのエリア内移動の拡充

川崎市・横浜市
中心部と郊外の交通のバラつき改善

交通コスト圧縮の解決策としてノッカルあさひまちを視察

ノッカルが挑むラストワンマイル／ファーストクォーターマイル

- 「ノッカルあさひまち」とは？
- 「地域交通」に感じる課題感
- 今後の展望「地域全体の再編」について
- その他

「地域交通」とMaaS

大都市圏でのMaaS開発やスマートシティ開発が進んでいたが、**地方は全くの別物。**

- 地方圏の地域交通の方が、圧倒的に大きな課題を抱えている。
- また、この地方での地域交通課題を解決できるプレイヤーは存在しない。

大都市圏でのMaaS ≠ 生活者課題
= 交通事業者の付加価値化戦略

地方圏での地域交通 = 生活者課題
= 社会や地域が抱える大課題

生活者課題型のMaaSとは？

MaaSの一般論：交通・サービス統合。

Level 4：社会ゴールの統合
データ分析による交通政策・都市経営の推進

Level 3：提供サービスの統合
公共交通に加えてレンタカー・シェア車も統合

Level 2：予約・決済の統合
トリップの検索、予約、案内、決済

Level 1：情報の統合
複数モードを含むルート提案、目的地情報

Level 0：統合なし

- whim
- UbiGo
- Uber
- Grab
- DiDi
- 経路検索サービス
- バス
- 電車
- タクシー

生活者MaaS：生活者が直面する交通/生活課題の解決。

徹底したMaaS事業者/生活者/現地ヒアリング

- Level -1
 - 高齢化社会
 - 自家用車社会
 - 免許返納
- Level -2
 - 職業ドライバー高齢化
- Level -3
 - 路線バス/タクシー撤退
- Level -4
 - コミュニティバス赤字問題
 - 地域交通の衰退
- Level -5
 - 交通空白地帯
 - 消滅可能性都市

「地域交通」の実態

マイカー公共交通 = 地域に馴染む設計 / コスト構造変革で、
日本全体の交通課題解決を目指したい。

民間路線バス

※空気運ぶ問題；90%が赤字



自治体コミュニティバス

※1,350自治体が自前運行



乗り合いタクシー

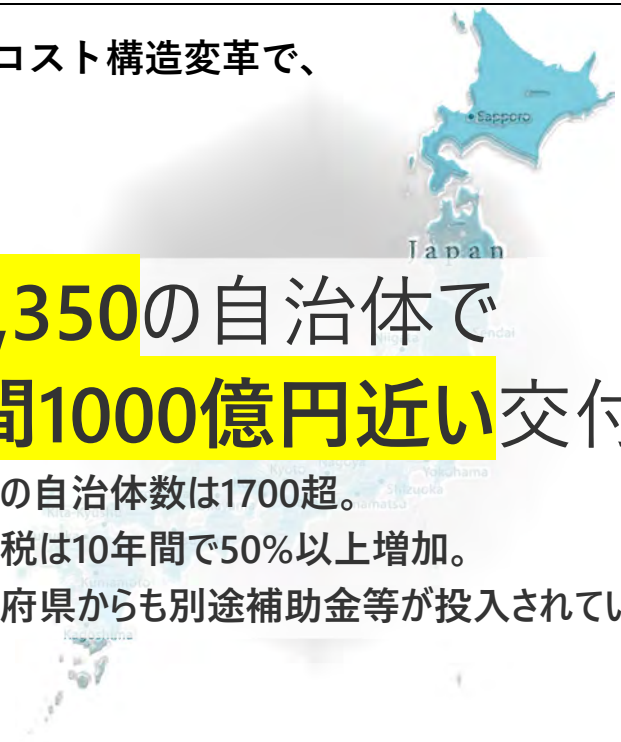
※デマンド型 = 事前予約が必要



マイカー公共交通

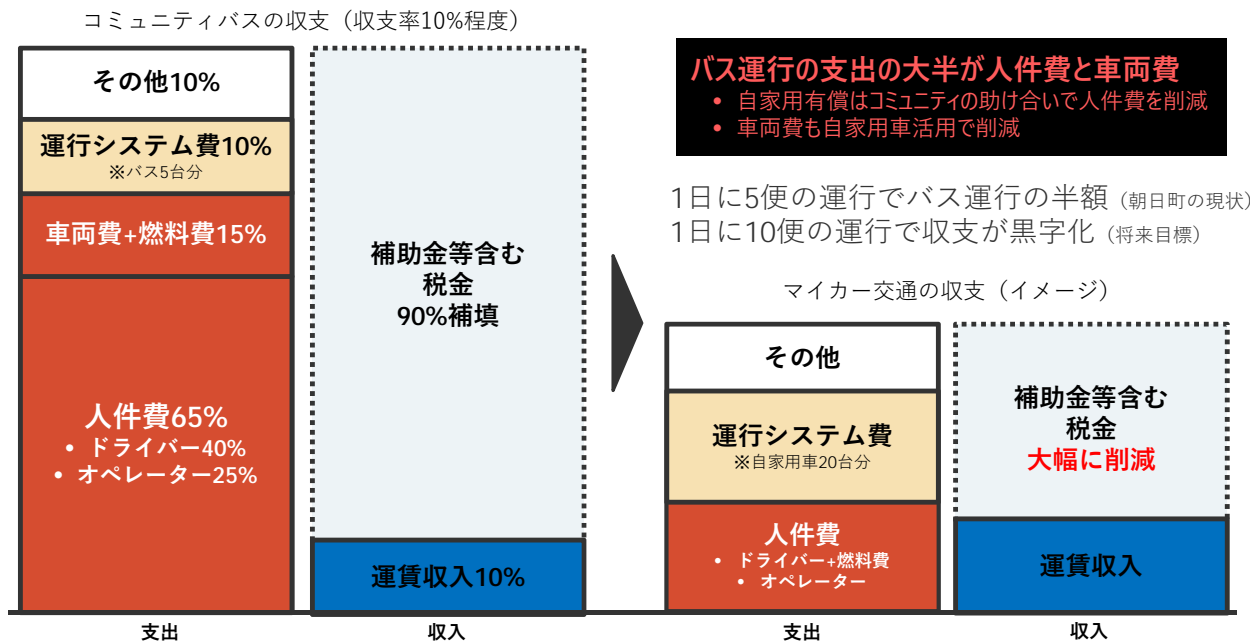
**約1,350の自治体で
年間1000億円近い交付税**

- ※日本の自治体数は1700超。
- ※交付税は10年間で50%以上増加。
- ※都道府県からも別途補助金等が投入されている。



「朝日町」がノッカルを導入した理由

マイカー交通は、最大のコスト課題である人件費／車両費を大幅に圧縮



ノッカルのコスト削減哲学

地域の既存アセットやハードを徹底活用＝外部の余計なモノは持ち込まない 地域アセットを活かしきるソフトウェア／サービス設計を徹底



ノッカルのコスト削減哲学：地方ならではの「モビリティ資産」活用

ノッカルは、**地元アセット**を徹底活用でコスト削減 地方ならではの**クルマ社会＝マイカーアセット**

朝日町内のモビリティ資産



3 台

導入費：1000万円
運行費：年1000万円



10 台

導入費：300万円
運行費：年500万円

マイカー

8000 台以上

朝日町(全国の田舎)に
既にある超絶資産！

ノッカルのコスト削減哲学：地方ならではの「地域コミュニティ資産」活用

地域の・地域による・地域のための 公共交通 地方部ならではの**アセット＝地域コミュニティ！**



ボランティア精神で
ノッカルを運行して頂いている
各地域のドライバーさんたち



地域に浸透する要因 = 地域に馴染む設計

新しいもの／デジタル化ではなく、**利用者が使いやすいサービス設計**
 = **コストの無駄をなくし、負担の少ない運行が可能**

バスと同じように乗れる

チケット、停留所／ダイヤ=バスと共用／補完

あまひまらバス 回数利用券(一週) 11枚綴り 2,000円 200円換	あまひまらバス 回数利用券(一週) 11枚綴り 2,000円 200円換	あまひまらバス 回数利用券(一週) 11枚綴り 2,000円 200円換	月	火	水	木	金	土	日
			7:55	7:55	7:55	7:55	7:55	-	-
9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30	9:30		
11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45	11:45		
13:00	-	13:00	13:00	13:00	-	-	-		
14:10	14:10	14:10	14:10	14:10	14:10	-	-		
15:45	-	15:45	-	-	-	15:45	-		

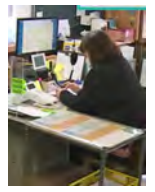


タクシーと同じ予約オペレーション

電話やLINE予約オペレーター=タクシーと共用



乗車予約窓口
0765-83-1189
 黒東タクシー
 (午前9時～午後5時)



公共交通としての安全設計

ドライバー講習／保険加入／マイカーメンテナンス



代金=最低限の感謝の気持ち

バス以上、タクシー未満の運賃とサービス設計

人数	1人当たり片道料金
1人	バス回数券 3枚 (600円相当)
2人以上 (乗合)	バス回数券 2枚 (400円相当)

運賃600円定額 (バス券)

- 直接の現金支払いNG／電子決済は高齢者NG
- 手間賃程度のドライバー報酬 (助け合い精神)
- ドライバー報酬は地域内商品券で後ほど町から

ドライバーに200円支給

地域による、地域のための、共助型交通

早くも**地域に浸透**しているノッカル。
 ユーザーだけでなく、**ドライバーにとっても心理的効用**が生まれている。



ノッカルの認知率 **84.3%**

ユーザーのみなさん



- ノッカルさんって呼んでます。
- 友達と一緒に話しながら出かけられるのが楽しい。
- 予約するのも頭の体操になっていいです。
- バスみたいに大回りせず**目的地に直接行ける**のが良い。
- 荷物を下ろす手伝いをしてもらったり本当に助かる。

ドライバーのみなさん



- 外から来た人間にとっては「**認められる感覚**」がある。
- 「ありがとう」と言ってもらえて**集落の中での役割**ができること、多少でも対価がもらえることが達成感。
- **地域のお役に立てているなら嬉しい**です。
- 通勤途中に一緒に行くだけなのでそんな苦にならない。

当初予想していなかった、住民発・ドライバー発・利用者発での広がり。
新たなコミュニティ効果が見え始めている。

こどもの利用拡大

児童クラブや習い事利用

利用者発での新たな使い方拡大

- 不登校児のノッカル利用（スクールバス代替）
- こどもノッカルによる習い事施策
- 児童クラブ等への利用拡張



お出かけの活性化

温浴や病院施設の定期利用

ドライバー発での新たな使い方拡大

- 温浴施設らくち〜の便開始＝バスでの直通便がない→定期利用者が増加
- 病院への通院透析利用者像→入院回避



地域内交通へ拡張

集落内の超近距離移動

住民発での新たな使い方拡大

- 月山地区での超近距離利用への要望
- 公民館での健康教室等への参加
- ファーストクォーターマイル対応



- 「ノッカルあさひまち」とは？
- 「地域交通」に感じる課題感
- 今後の展望：「地域全体の再編」について
- その他

ノッカルが挑むラストワンマイル/ファーストクォーターマイル

地域交通の次世代モデルを目指しマイカーデータを活用した計画策定を実施 ノッカルだけでなくバスやタクシー含めた地域交通全体の統合サービス化へ

自家用車データ活用

車載デバイスを活用した移動実態・交通空白の把握
交通再編プランニングへの活用

SUZUKI FLEET

Goodra Challenge!

各メッシュを発生する町内移動に占める公共交通で可能な移動の割合

52.6% 22.6% 47.6% 20.3%

4205 29.5%

426 11.5%

3.3% 14.9%

交通計画のモデルケース作り

交通再編プランニングを国交省に提言
朝日町にて次世代交通計画モデルの創出へ

朝日町みんなで作る地域交通

交通再編のためのプランニングソリューションを開発し、パッケージで自治体に提供。計画策定に活用することで、実交通サービスの導入に繋げていく。

現状分析 → 課題抽出 → 解決策

地域交通全体の統合サービス化

ノッカルだけでなく、タクシーやバスのデータを共通化
地域交通全体での統合サービス化へ

1. ノッカルあさひまち (新たな移動環境への対応)

2. あさひまちバス/タクシー

3. 統合サービスとしてのデータ一元化

朝日町の交通案内

あさひまちバス

ノッカルあさひまち

乗車タクシー

ノッカルが挑むラストワンマイル/ファーストクォーターマイル

ノッカルで活用したシステムを横展開し、マイカー交通だけでなく、 多様な地域交通に対して、安価に導入できる仕組みを開発 (ファーストクォーターマイル対応)

ノッカルモデルの横展開

高岡市ノッカル中田のエリア拡大/浜松ノッカルの検討/来年度デジ田予算で横展開

高岡・中田 乗り合いサービス「ノッカル」に2地区追加

自治体

- 富山県朝日町
- 富山県高岡市 総合交通課
- 富山県高岡市 高齢介護課
- 静岡県浜松市
- 神奈川県横浜市
- 山形県西川町
- 静岡県東伊豆町
- 石川県珠洲市

乗り合い交通へのシステム導入

高岡市・横浜市に置いて地域デマンド交通へのシステム導入
福祉支援のニーズ(ヘルスケア領域) = 1Grへのフィールド提供・共創へ

「回数限り」スタートと並行「1イオン」

高岡市・横浜市に置いて地域デマンド交通へのシステム導入

福祉支援のニーズ(ヘルスケア領域) = 1Grへのフィールド提供・共創へ

バスへのシステム導入

青梅PlalaのLINEサービス化へ 遅延情報・時刻表確認

青梅PlalaのLINEサービス化へ 遅延情報・時刻表確認

LINEを軸にした交通統合・再編へ

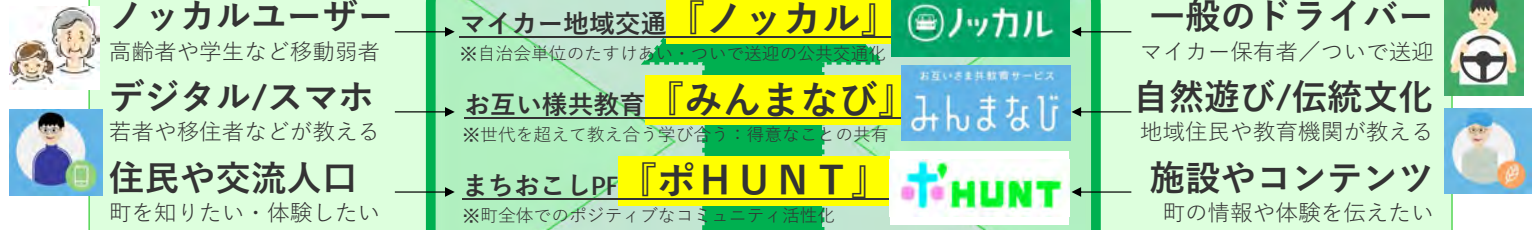
地域交通全体への統一LINE予約システム導入・運行管理へ (朝日町・高岡市)

地域交通全体への統一LINE予約システム導入・運行管理へ (朝日町・高岡市)

次世代公共サービス≡共助型の社会実装 日本の社会インフラの变革

地域の
ニーズや課題

地域の
アセットや人材



デジタル田園都市国家構想推進交付金『type3』
多様な地域課題領域での共助型サービスを開発、生活インフラとしての社会実装と連携・統合を目指す

サービス化：LINE/アプリ/共助型PF 開発 = 博報堂開発 × 朝日町役場提供 × 地元事業者運営

体制の構築：官民共創 = みんなで未来！課（みんな = 朝日町役場 × 博報堂 × 地元事業者 × 地元住民）

公共性担保：マイナンバー = 個人認証の安心・安全、マイナポイント&地域通貨 = 地域利用促進
※今後対応予定

公共サービス全体の利用/予約のデジタル化を目指す「みんなんばーカード」 利用者データの獲得で**利用促進とサービスの最適化**を行う

サービス内容（事業分野：①行政サービス）

町の生活インフラすべてを利用でき、住民全世代が使えるカード型の公共サービスパス：地方公共サービスのDXモデル！

- 令和3年度からの地域交通ノッカル、地域活性ポHUNT、地域教育みんなびを、生活インフラ全体・住民全体へ拡大し、既存公共サービスも含めた町まるごとデジタル化を行う
- 個人のマイナンバーに紐づいたQRコードを発行し、マイナンバーカードやカードケースに貼付して全住民に保有してもらい生活DXプラットフォームに ※カード型での発行も可能
- 利用者がQRコードを各施設側で提示する(QR読み込み)ことで利用ログの取得や決済ができ、また、行政から遠隔での利用パス付与も可能
- 子ども世代・アクティブ世代・高齢者世代、それぞれ世代の行動やニーズに合わせたサービス設計・拡張を行い、地域全体でのデータの地産地消を目指す

子ども (幼保～学生)	共助	アクティブ世代 (20代～60代)	共助	高齢者 (70代以降)
地域コミュニティでの子育て/教育 みんなび お互い様共教育サービス 208人(小学生全364人中) デジタル探求教室 学校内の総合学習 50人(小学6年生半年度)		地域コミュニティの担い手/活性化 ポHUNT 地域活性キャンペーン 累計2500人 エネCharge 朝日町初の高エネルギー EV充電サービス		地域コミュニティでの移動/見守り ノッカル マイカー公共交通 累計13000人 もちもたnet お互い様共教育サービス
子どもバスを各サービス利用時に読み取り 授業・登下校・校外活動の記録・見守り <ul style="list-style-type: none"> 放課後児童クラブ・児童館利用 (8,466人/年) スクールバス利用 (42,990人/年) 小学校/中学校登校 (588人) 防犯ブザー 	朝日町公共サービスパス「みんなんばーカード」 マイナンバーカード×QRデジタル決済 / LINEによる利用/予約サービス×情報配信			シルバーバスのデジタル化でデジタル決済 福祉施設・病院での記録・見守り <ul style="list-style-type: none"> シルバーバス(10,721枚/年) バス/タクシー利用 (約52,000人/年) 福祉/病院利用 (約14万人/年) 病院診察券/予約の仕組み

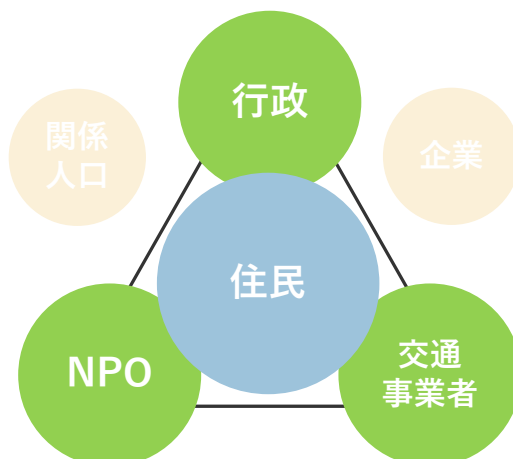
プレミアム商品券発行など合わせた朝日町内全域での地域通貨としての活用（各商業施設などの決済端末の整備が必要）

地域通貨への拡張
地域商品券/プレミアム商品券の延長として、将来的な地域通貨への拡張を目指す：朝日町内の民間商業施設等での利用を想定



- 「ノッカルあさひまち」とは？
- 「地域交通」に感じる課題感
- 今後の展望「地域全体の再編」について
- その他

負担（費用/業務）を誰かに（一部）に集中しすぎていないか？
住民を含めた全員参加型で地域全体の交通を作っていく



- 交通サービスづくり
- ドライバー
- 運行管理
- 財政負担
- 利用者募集/周知

朝日町は、DX推進専門組織「みんなで未来！課」を発足
博報堂のDX専門人材も参画し、官民共創でDXを推進

みんなで未来！課

